

第2回「第4期南砺市地域福祉計画」策定委員会 議事概要

日 時	令和8年3月19日（火）午後2時～午後3時	
場 所	南砺市地域包括ケアセンター 2階 多目的研修室	
出席委員 10名 （敬称略）	富山福祉短期大学 教授	鷹西 恒
	NPO法人南砺市医師会	松 智彦
	南砺市社会福祉協議会	中山 繁實
	社会福祉法人 マーシ園	式部 裕美
	特別養護老人ホーム福寿園 施設長	吉田 孝幸
	南砺市地域づくり協議会連合会 理事	戸成 博宣
	南砺市シニアクラブ連合会 女性副会長	廣瀬 恵美子
	南砺市身体障害者協会 会長	藤井 千悦
	南砺市手をつなぐ育成会 会計	奥村 雄一
	南砺市ボランティア連絡協議会	山下 文子
	公募委員	傍田 裕子
欠席委員 5名	南砺市民生委員児童委員協議会	得能 金市
	男女共同参画推進員南砺市連絡会 代表	佐竹 弘昭
	公募委員	長田 唯似
	公募委員	古瀬 陽子
傍聴者	なし	
事務局 6名	地域包括医療ケア部長	松田 哲也
	地域包括医療ケア部福祉課長	高見 宏
	社会福祉係長	得能 宏美
	社会福祉係副主幹	近藤 隆洋
	社会福祉係主事	小室 祐貴
	社会福祉係事務補助	江川 裕介

1. 開 会

挨拶 福祉課長

2. 委員長・委員長代理選出

3. 議事

委員長： それでは次第3の議事に入ります。(1)のアンケート調査結果について事務局より説明をお願いします。

(1) アンケート結果について

事務局より説明・・・資料（アンケート調査報告書、南砺市子ども・子育て支援事業に関する調査結果報告書（抜粋））

委員長： 以上、アンケート調査、或いはまた追加資料のご説明があったところです。今いただいたばかりの資料でボリュームが大きいものですからまたその都度、何かございましたら、教えていただきたいというふうに思います。
それでは(2)のテーマディスカッションについてです。テーマについて資料をいただいていますので、お考えになってきたこと、アンケート調査結果を踏まえての意見を自由に述べていただくという場にしてもよろしいでしょうか？それでは順番をお願いします。

(2) テーマディスカッション

テーマ1 アンケート結果から見てきた、南砺市が「特に力を入れて取り組むべき」と考える福祉課題について、それぞれの専門分野やこれまでのご経験を踏まえてご意見をお聞かせください。

委員： アンケート結果も踏まえてですが、南砺市は非常に少子高齢化、人口減少が進んでいて、ニーズがそのまま年齢が高い方へ追従しているように見受けられます。なので地域別にしても、どんどん介護に関するニーズが大きくなる傾向にあります。一方で、子ども・子育て支援事業に関する調査結果報告書の結果というのが大事なんですが、ニーズとしては大きくないことになるかもしれません。
南砺市に公園等は多いと思います。しかし面積も大きいので自分で行くには時間がかかる等の課題があると思います。
その中で福祉課題というのは、例えば子供の遊び場一つとっても、子供たちが幸

せに生きるために必要なものの一つでそういうものも必要です。それから放課後児童クラブの充実という意見もありましたがこれも併せてみえるのではと思いました。

それから各種知名度についてポイントが下がっているものもありました。おそらく若い世代は福祉に関する事業活動であったり、専門的な職員に関わるニーズがなく、あまり関わりがないという可能性も考えられます。そう考えると高齢化が進んでいるということが今の段階では見えてきていると思います。

委員： 人口減少について、南砺市ができたときは6万人で、今後20年で3万人まで減るということで、何かしようと言っても、これからはできません。おそらく警察署もなくなり、病院も多分1つになってしまうでしょう。ここでの問題は病院以外で、介護施設です。特養が4つあるのは、3つにしないと職員もいないですし、サービスが十分できなくなります。それなのに南砺市は真剣に考えてなくて無駄な部分がすごく多いと思います。例えば、グループホームを無尽蔵にいっぱい許可しました。でも、そこにも介護人材が割かれているんです。要の特養が運営できなくなる状況が見えてる中で、それを管理監督できてない。他にも、県外のグループホーム事業者が南砺市で事業を運営しているとします。1人のケアマネージャーが立てれるプランの上限は40人です。でも県を跨いで確認はできないから今後介護人材不足になれば現場は他県の分と合わせて40人を超えるケアプランを作るしかなくなるかもしれません。だから認可した南砺市なりがしっかり監督しないと、サービスの担い手も受けても共倒れするのも時間の問題かもしれません。そこをどう考えているのか聞かせてください。

事務局： 認可は市ではなく砺波地方介護保険事務組合です。

委員： グループホームは市でないのですか？とにかく市としてもどう対処するのか考えを示してください。人材が分散して必要な所に人が集まらないから、このままだと特養が3つになってしまいそうだと問題になっているんです。介護の崩壊、それをまだ市も誰も問題にしていけないんです。もう人が足りていないから定員数を受け入れることができてないんです。

事務局： 法的に制限できることは制限します。法的に制限できないから制限できてないということになります。やはり今ある財源と、人的資源で無駄をなくして最大限の効果を生むように頑張るしかありません。だから余計なもの、必要なもの、それぞれ何か探して、検討しないといけません。

委員：また、お聞きしたいんですけど、市職員のボランティアの参加状況はどのような状況でしょうか？

事務局：個人でということになれば、職務のことでは無いので把握はしていません。

委員：また、アンケートの設問について、男女の別は問うべきじゃないと思います。この後のテーマに対応するのに難しくなる部分もあります。そういう問題もありまして、この計画を持って今後5年先、10年先の物事の解決に繋がるのか不に思う所があります。

事務局：解決に向けて努力します。

委員：さらに言いますと、保健師の現況についてです。以前まで、おそらく20年前まででしたら保健師に認知症老人のことで相談をするとその日のうちに調べて解決対応してくれたが、今は業務量増加と人手不足でそれができない。こんな状況だからこの計画も立てている間に問題の方が先に進んでしまって解決にたどり着くことはないんじゃないでしょうか？

事務局：福祉という分野はすべての問題を一気に解決するのは難しいと思いますので、一つ一つ解決していくしかないと思っています。

委員：福祉分野では他にもあって、僕はケアマネの1期のその試験を受けたときは、障害者の方も老人の方も1つの介護保険、介護サービスにしようって言っていた。でもそれは多分できないこと。老人介護については1割負担、障がい者に関しては負担がなかったことで一本化できなかった。

事務局：制度の成り立ちの関係で難しい所があると思います。

委員：そうなんです。ですからそういう所を、効率よくできるように行政が動かないといけないと思います。そうしないと特養を一つ減らすだけで間に合わないかもしれないんです。

委員長：そのような「気付き」ような考えももって計画に表現すればいいと思います。

委員：アンケート結果から感じたのは地域の担い手不足が一番大きな問題です。ですので世代間を超えた取り組みというのはどうでしょうか？若い方から高齢の方ま

でが一緒になっての取り組むことで地域の状況を知ることが大切なことだと思いました。

それから、障害者施設の職員ですので、障害者施設が福祉避難所としての役割をもっていることとか、8050問題の地域とか引きこもりのこととか、携わっているのである程度存じ上げているのですが、アンケート結果をみると意外にも認知度低かったのもう少し認知度が上がれば私達の意欲も湧くと感じました。

委員：生活支援体制の整備ということで、特に独居高齢者の方の見守りでありますとかそれから冬期の除雪支援など、地域住民といわゆる連携といった形での生活サポートは、やはり必要ではないかなというふうに考えております。

委員：アンケート結果というところと、これまでの経験を踏まえてということで、私は公募委員でして、専門家ではなく、一般市民の意見ということで述べさせていただきます。私はボランティア活動を数多くやっております、子育て支援が中心です。そこで感じるんですが、このアンケート結果でも出たように、やっぱりボランティアとか、地域活動の担い手というのが減っているというか、高齢化していて、もうこれはいずれ頭打ちが来るっていうのを肌で感じています。特に若年層にボランティアという感覚が希薄だと感じています。

私、30代から子育て支援に携わってきましたが、今50代で私最年少です。ということは下の世代で、ボランティアやってみたいという人がいない。お声掛けしても、忙しいからと、拒否される方が多いです、そもそも関わりをあまり持とうとしてくれないというのがあったんですがアンケート結果にもやっぱりそういうところが出ているなあ実感しました。これが担い手が減ってくるっていうことで、結局、互助であったり、共同であったりっていうところにも大きく影響が出ますし、若い人たちの定住であったりとか、特に高齢者の支援っていうことを、どうしても南砺市は高齢者の方多いので、持ち上がってきてしまうんですが、子育て支援をしっかりしていかないと、若いお母さんたちが南砺市から出ていってしまう。ちゃんと育児が、楽しく、みんなに見守られながらできるぞっていう感覚がないと、結局人口減少に繋がっていくと思います。やはりそもそもボランティアとは何ぞやというところを、考えながら、私ボランティアと思ってボランティアをやってきたわけではなくて、あくまで自分のやりたいことを突き詰めてみたら、それはボランティアだったっていう状態なので、もうちょっと担い手をどうするのかっていうのを考えていけたらいいのかなと思いました。

委員：私もこのご意見お聞かせくださいっていうのを読んだとき、まずアンケート結果見たとき、当然予測される結果ではなくて、どれも平行線で意外性がなかったとする

と、これは先手先手でやっぱりいろんな地域住民への働きかけを意図的にやっていけないといけません。 いまから雇用延長になって、どんどん私たちもそうなります。なので今、新入団員のいない赤十字等は非常に高齢化してます。

どうやって、輪を広げていくかっていうのやってるんですけど、自分の私的な経験から言っても、親が高齢になって介護を要するようになったときにあわてて、どこ行こうどこ行こうとあたふたする。そして今度、自分が高齢者になってまだまだ余力があって、何かボランティアしようかなと思ったときに、どんなボランティアがあるのかっていうのが、よくわからないです。

支援する側もされる側もみんなが等しく経験することであるんだけど、なかなかその情報が共有されないと思います。市の広報等を見ていたらいっぱい長い文章で書いてあるので、もっともっと地域住民にいろんな情報を簡単にわかるように、例えば「イエス・ノーで追ってたらこの窓口に行ったら詳しい情報が聞ける」とか情報共有するための方法をもっと意図的に発信していかないと、なかなか口づてでやっていく、最初は地域も関わりますっていうのもありましたけど、なかなかそういう自然発生的に情報共有できるようになるというのは困難だということです。

ちょっと取り留めないことになりましたが、各々が考える、子育ても、介護も、みんなが等しく経験しなければいけない、福祉の分野ですから市として情報を簡単に共有できる方法を、いろんな形で働きかけしていると思いますが、なかなか認知できてないことが多いんじゃないでしょうか？

それがこのアンケート結果から見えてきたっていう中で、市の側でいや私たちはこういうことをやってるんだけどなかなか、そこが伝わらないんだとか、アセスメントして、私たちに投げかけようとして、次の策定をどう考えようとしてるのかという所が、全体的に見えなかったので、非常に悩みました。厳しいことを申し上げてすいません。

委員 : 知的障害者の当事者の会というところで、一番問題になっているのは親亡き後とことで、みんな心配しています。このアンケートの中でいくと、８０５０というか、引き籠りの方なんかも、高齢の方で、両親とか親御さんと一緒に８０方の中にいらっしゃるのか。いずれにしても、８０の高齢者の方が亡くなっていくと、その５０の引き籠った方、障害者もそうなんですけども、同居じゃなくて単独で生きていけなくちゃならないといったときには、最終的にもどうするのか、青年後見人制度みたいなものもあるわけですけど、上手く伝わっていくか。そしてその本人自体はグループホームに入れるのか入れないのか。知的障害があった場合はグループホームというわけにいかないのか、それ以上のところ、どこか誰かっていうようなところを、皆勉強会とかでそういうところはやってるんですけども。

市の方でそういうところをもう少し積極的に情報提供とか、分からないといったときに的確に教えてくれる仕組みがあればいいなということも意見としてありました。

委員 : 支援を希望している人がいるのに手を差し伸べられていないとみなの意見を聞いて感じました。この委員会の中でも市が積極的に何をどうやって助けるか真剣に向き合って欲しいです。

委員 : シニアクラブは高齢者の寄り集まりといいますか、65才になればシニアクラブの会員になるのですが入会は任意ですので、どこの地域でも役員が当たるから入らないとか、今年でやめますという人が増えていてだんだん会員数が少なくなっています。少なくなったことによって、その地域で民生委員が誰なのか、PTA会長はなんていう名前かということがわからない人が多いです。アンケート結果を見ましたら広報でいろんな情報を得ていると大多数の方が回答していましたけれど、高齢者になると文字を見るのも嫌だという話も出てきますので、私はこの会議の中でどうしたら魅力のある地域づくり、地域活動ができるのかっていうことを1つ勉強させていただきたいと思って出ております。また皆様のご意見よろしくお願いいたします。

委員長代理 : 資料を見た中で気づいたのは、18歳～29歳の人たちが、南砺の福祉活動を始め民生委員児童委員のこととかやっぱりあまりよく認識していないということを感じました。今ほど、それこそ広瀬さんからは高齢者の中には市の広報を見ない方もいるという話がありましたが、若い18歳～29歳の人達にも広報を見て市の情報を得ている方はあんまりないのかなと思います。やはりこの世代の人達に一番直結で見えていただけるのは、スマホの画面だと思うので、QRコードもそうかもしれませんが、工夫をして若い人たちが、特に福祉活動など、具体的になったときに、調べてすぐわかるような、手だてがあればいいかなということを感じました。

もう1つは今日小学校5年生と中学2年生の調査結果も出していただきまして、これを見てですね先ほどもありましたが、公園や屋内施設などはそれぞれの場所の拡充というのが一番になっていました。今の子供たちは、コロナで外へ出てはダメ、熊が出るから外へ出てはダメということで、学校から帰ってきてから外にほとんど出られないことが続いているのでそのような回答に繋がったと思います。例えばニュースを見ても、高岡市のショッピングセンターの中に、子供の遊び場ができたとか、新川地区で子供が屋内で遊べる場所を作る動きが報道されていました。思えば、地域のおばあちゃん方が口を揃えて小学生の孫達が図書館の

オープンスペースに友達と遊ぶために毎日行きたがるという話を聞きます。ですので当然南砺市の子を持つ保護者にしてもそのような、子供達が屋内で健全に楽しく遊べる遊び場の必要性を強く感じておられることがあるんだろうとわかったということでもあります。

委員長： ご意見等ありがとうございました。私は市社会福祉協議会長をしまして、このように新たな意見を踏まえてまたいろんなことを考えていくべきなんだろうと思います。私どもが日々活動してる中で、一番感じておりますのは制度と制度の狭間の所を、どうやって手を差し伸べていくかという所で、ご意見にもありました仕組みの関係で行政が手を差し伸べられない部分にどのようにアクセスしていけばいいのか大きな悩みでして、皆さんともそういう話をしているところでございます。より具体的な取り組みとして、こういう制度についてどういうやり方でやっていけばいいのかなということを、文言として入れるべき状況でもあるということです。皆さんがたの1番目のテーマについてはやはり、高齢者の支援ということもございましたし、また情報提供のあり方、発信の仕方、そういうものもありましたし、また障害の方の、親亡き後問題、これも本当に難しい問題でありますので、そういうところに、行政として何ができるのかということは、また難しい部分があると思いますけれども。そういうところをどうやって支える体制をつくれるかというのが理想だと思うところではありますが、いろいろと取り組みながら、調整をお願いしまして次のテーマに移ります。

テーマ2 市民や民生委員の皆さんの声から見えてきた、地域の「良い点」や「既存の活動」をさらに発展させるにはどうすれば良いと考えるか。また、地域住民が福祉活動に「より積極的に参画する」ための仕掛けやアイデアをお聞かせください。

委員長： 次に、2番目のテーマに移ります。
市民や民生委員の皆さんの声から見えてきた地域の良い点や既存の活動をさらに発展させるためにはどうすればいいのか、或いは地域住民の福祉活動に積極的に参加するための仕掛け、アイデアについて聞かせいただきたい。

委員B： 民生委員の担い手についての現状についてどうなっているのか。

福祉課長： 昨年12月に一斉改選し156名の民生委員児童委員を任用している。全国的には欠員が出てる地区もあるが、南砺市では欠員はない。3年前と今回を比較すると平均年齢が上がってきてる。若い方にもなっていただきたいため、商工会とも協定を

結ぶなどしているが、結果は出ていない状況。また、市では、地域福祉推進委員という形で、民生委員とは別で地域の福祉を担う方という形で委嘱している。こちらは、比較的若い方も参加、協力していただいている。

委員長： 選任の方法や制度など、長く続けていけるような参加しやすいよう仕掛けがあればいい。

委員： データから今後、仕事をリタイアして地域のために頑張っていこうかなみたいな人の層が増えるので活用できないのか。団塊ジュニアに働きかけることができたらいいのかなと。また、今の子供たちは地域課題と向き合って解決したいとかそんな思いを持ってる。

社協の地域福祉活動推進計画と両輪で、福祉教育をすることができれば、将来の担い手、育成につながるのでは。

また今後は市民の協力が不可欠であり、市民の方の意識も変えていくような取り組みが必要なのではないか。

委員： ボランティア活動してポイントを貯めるアプリがあったがどうなったのか。ボランティアをボランティアだと思ってやるよりは、自分にメリットのあることであれば忙しくても参加されて、結果それはボランティアなるんじゃないか。ボランティアの項目をもっと細分して隙間バイトのボランティア版があればいい。ボランティア団体に入る時点で、もうネックになることが結構ある。ボランティア団体を作るよりは、ベースになるものがあればいい。

福祉課長： なんとポイントについては令和4年3月末をもって終了している。ボランティア活動については、市社協と協力して実施しており人数は減少しているが、登録団体は増加傾向にある。

委員長： 福祉教育というものが大事だと思っている。

部長： ボランティアポイントについては、地域通貨に組み込めないかという検討をしているが、地域通貨も乱立しており、どれが南砺市にふさわしいのかということもあり、継続して検討しているところ。

テーマ3 今回のアンケート結果を踏まえ、今後の地域福祉計画において「重点的に盛り込むべき」と考える施策や視点について

委員長： 今回のアンケート結果を踏まえ、今後の地域計画において重点的に取り組むべき施策についてご意見を聞かせていただきたい。

委員： ボランティアというか、施設で食事介助とかすると介護保険料が安くなったり、ポイントがついたりするような取組を東京の稲城市とかで行っている。また、地域の子供たちに高齢者が勉強を教えることで将来の要介護なるリスクを減らす取組などある。

また、私の思う重点的取り組みはひきこもり対策ではないか。80 数人と数字も年代もわかっている。この 80 何人が働いて、税金を納めるまで行けば、本人にとっても地域にとってもいいんじゃないか。コミュニティー就労とか、いろんな方法がある。ひきこもり対策をやることによって、医療費の抑制にも繋がる。

それから障害者は震災で避難がなかなかできないと気づいた。地域づくり協議会とか、いろんなところの町内会と連携して災害対策をする必要があるのではないか。

委員： ひきこもりにはいろいろな事例があり、民生委員さんだけでは多分対応しきれない。

委員長： ひきこもりについては難しい問題であり、社会福祉協議会ではそういう方たちの居場所づくりに取り組んでいる。社会参加が大事である。

委員： 孤立関係で、やはり SNS とかアプリで繋がりを構築していくこと、交流から取り残さないことが大事

委員： 情報提供が大事だと思っている。ひきこもりの方にしろ、子育て中の方にしろ、ボランティアにしろ、積極的に PR することが大事なのは。

委員： 高齢者の支援は大切なんで必要なのだが、大きな指針としてやっぱり子育て支援もしっかりと入れていただきたい。女性が住みやすい地区にしていかなければ人口が減っていくのではないか。子育て支援と高齢者支援を両輪にしていけたらいいのではないか。

委員：情報を共有が大事なのではないか。この地域の中に住んでる人たちが、支援されるされるし、自分が何かできること、できるときにやるってようなそういう情報共有、ぜひしていきたいなと思います。

委員：A I を使った相談のアプリでいろいろな相談がしやすいようにできれば、南砺市版 ChatGPT みたいなものがあれば、対応する方の負担軽減と、人口問題整理をしていけるのではないか。

委員Ⅰ：ヤングケアラーの数が多いと驚いている。支援のためには地域への話しやすさ、そういう場をどんどん作っていかねばならないと思った。

委員長代理：先ほど委員長から、福祉教育は小学生にも中学生にも機会をとらえてやってるんですよっていう話あった。中学２年生が「14 歳の挑戦」をやっており、その中で子供たちがやっぱり介護施設行ったり、或いは福祉施設行ったりして体験してる。その結果を報告書として、どこの学校も全部まとめている。そういう体験を福祉大会等で発表する場合もあり、情報として発信していくことで、結果的にボランティアつながるのではないか。
以上です。

委員長：地域から孤立している人々、ヤングケアラーなどそういう方々にどうやって手を差し伸べていくかという仕組みを、何とか作りたいなと思っていますがやっぱりこれには、地域住民の皆さんのお力をいただかないといけない部分がある。こういうものを含めた形で、個別具体の重点策という形になっていくのではないか。
皆さんのご意見を踏まえた形で施策の方向性ということで調整していきたい。

事務局：今後のスケジュールについて説明